特集

どうなる？地域の「足」

～今後のバス運行のあり方を考える～

地域からバスがなくなるとどうなるのでしょう。

過疎地域に住む私たちの移動手段は自家用車が中心です。その反面、自家用車の普及によって公共交通の利用者は年々減少を続け、特に地域に密着している路線バスの運行を維持することが難しい状況を生み出しています。

このような状況下で、学生や高齢者の方など、自動車を自由に利用できない人の移動手段はどう確保すればいいのでしょうか。市では、地域公共交通会議を設置して市民の代表者の方と一緒に検討しているところです。

ここでは、今後のバス運行のあり方について考えます。

1 バス運行の現状と主な問題点

養父市総合計画では、施策の柱の一つに「快適」を掲げ、その中で「交通弱者の日常的生活行動を支えるとともに、来訪者の移動手段を確保するため、既存の公共交通システムを補完し、連携するコミュニティバス等の新たな交通システムの導入により、効率的・効果的な公共交通体系の確立を目指します」としています。

市では、総合計画に基づき、路線バスの運行を維持するために路線バス運行会社に対して補助金を支出し、路線バスだけではカバーできない地域や公共交通の空白地域においてはコミュニティバスなどを運行し、市民の日常生活を支える交通手段を確保しています。

しかし、バス運行を維持するうえで、次のような問題点を抱えています。

【主な問題点】

①面積が広大なうえに谷筋に沿って集落が散在しているため、バス利用者がまばらになりがちで輸送効率が悪い。

②八鹿病院など市の中心部にある施設まで距離があるため、運行経費が高くなっている。

③路線バスを維持するための国・県・市からの補助金額が年々膨らんでいる。

④運行が休止されるバス路線がある。